

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院脳神経外科に、脳動脈瘤で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学脳神経外科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

脳血管疾患診断・治療支援システム開発のための後ろ向き観察研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学脳神経外科学講座 助教 矢本 利一

3. 研究の目的

本研究では、脳血管疾患診断・治療支援を目的とした血管観察システムを開発しています。本システムにより、Magnetic resonance imaging (MRI)やComputed tomography (CT)によるボリュームデータを画像処理することにより取得した血管位置および血管径のデータを用いて、血管を仮想的に操作したり、血管を選択的に表示したり、血管を3次元的に表示したまま血管径を知ることができるようになりました。さらに、血管位置および血管径のデータを用いて、血管内治療時の脳底部から動脈瘤などの病変までの経路を提示することができます。本研究の目的は、本システムの実用化を目指し、多くのMR Angiography (MRA)やCT Angiography (CTA)画像を後方視的に用いて、本システムを検証することです。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

和歌山県立医科大学附属病院脳神経外科に通院歴のある18歳以上の脳動脈瘤の患者さんで、2019年1月1日から2022年12月31日までの期間中に、MRIおよびCT検査をされた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、年齢、性別、頭部MRIおよびCT画像です。

(3) 方法

はじめに、共同研究機関である近畿大学へデータを提供し、MRIおよびCTのデータを血管位置および血管径の自動的計測における、血管位置および血管径の計測精度を検証します。その後、開発した脳血管疾患診断・治療支援システムにおける血管仮想操作、血管選択表示、立体視、血管径の可視化による視認性を検証します。最後に、脳底部から病変部までの血管経路表示における有効性を検証します

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡くださ

い。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 資金源及び利益相反等について

本研究は、講座研究費によって実施され、利益相反はありません。

8. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学脳神経外科学講座 担当医師 矢本 利一

TEL : 073-441-0609 FAX : 073-447-1771

E-mail : tyamoto@wakayama-med.ac.jp